

長野県におけるスノーリゾートの 現状と取組について

長野県観光部 部長 中村 正人



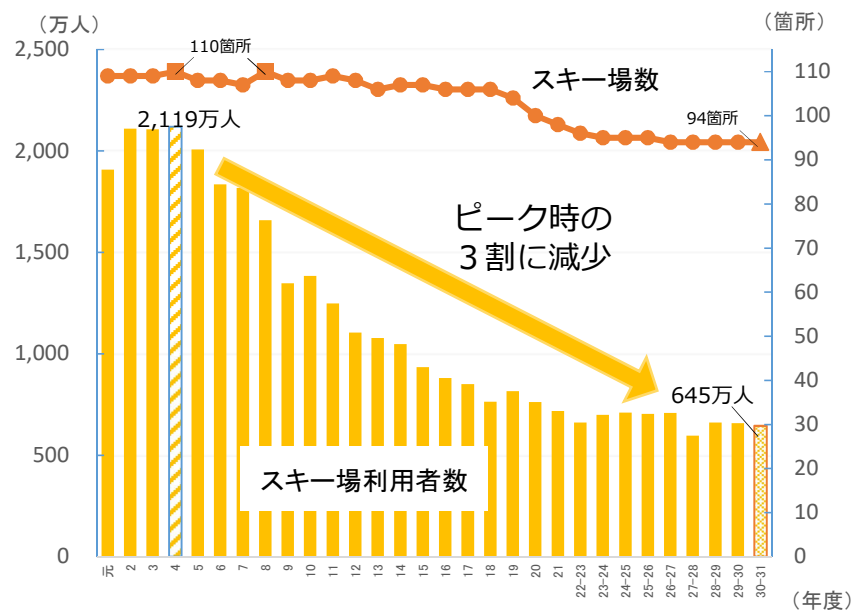
2020.1.14

長野県内のスキーリゾートの現状

- ・長野県内のスキー場利用者数は、平成4年度の2,119万人をピークに減少が続き、平成15年度には1,000万人を下回った。平成21年度以降は横ばいで、平成30-31年は645万人（ピーク時の約3割）
- ・一方、スキー場数は現在94箇所までピーク時（110箇所）に比べ16箇所の減少（△約15%）
- ・県内スキー場の中には国内のスキー人口減少を背景に、インバウンドを中心とした誘客の拡大に取り組んでいるところもある
- ・外国人客の獲得には、スキー場の環境整備が不可欠であるが、県内スキー場の索道は老朽化が進み、全体の約8割が5年以内に耐用年数(30~35年)を迎えるほか、近年のシーズンインの降雪不足に対応するため、人工降雪機の導入など、スキー場として必須の設備・対応への投資が急務

スキー場利用者の推移

■スキー場利用者及びスキー場数



出典：【長野県「スキー・スケート場利用者統計調査」】

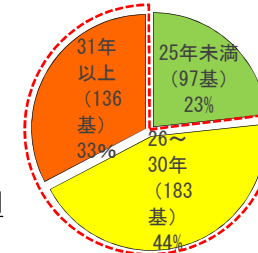
利用者数の多い主なスキーエリア

エリア名 (スキー場数)	延利用者数 (平成30-31年)
HAKUBA VALLEY (10)	154万人
志賀高原・北志賀高原 (22)	145万人
軽井沢・佐久 (9)	83万人
諏訪・車山・富士見 (7)	44万人
野沢温泉 (1)	42万人

環境整備などの解決すべき課題

- ・設備のリニューアル
- ・生産性の向上
- ・経営者の負担軽減

県内索道(416基)の経過年数



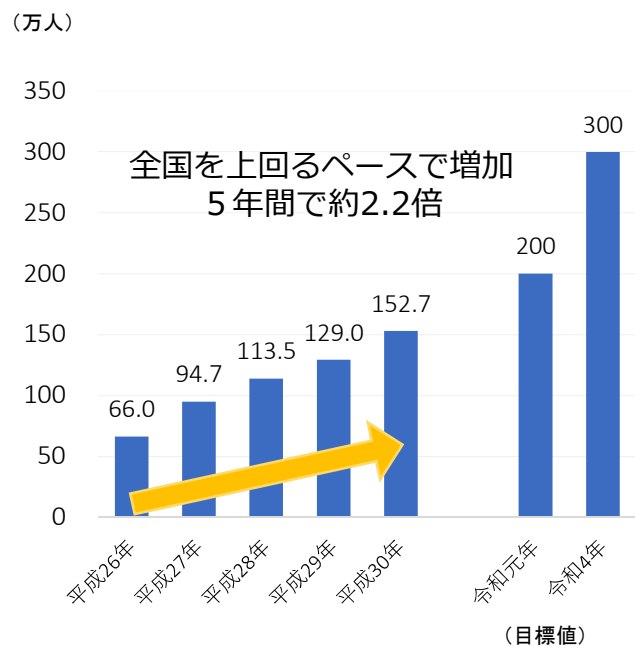
【例】Aスキー場のリフト更新費(推計)
 リフト 3億円×8本=24億円
 高速リフト 6億円×4本=24億円
 ゴンドラ 30億円×1本=30億円
計 78 億円

出典：【長野県索道事業者協議会調べ(平成29-30年)】

長野県内におけるインバウンドの現状

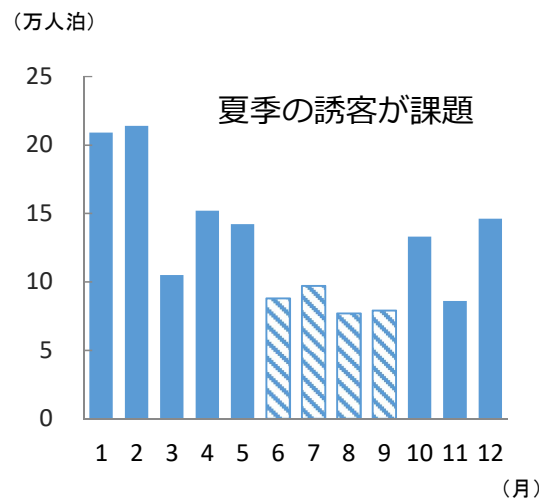
- ・平成30年の長野県における外国人延べ宿泊者数は過去最高の152.7万人（対前年比18.4%増）であり、5年間で約2.2倍の増加
- ・国（地域）別の入込みでは、上位4地域は直近3年間変化がなく、台湾とオーストラリアが多いのが特色
- ・月別の入込では、夏季（6～9月）が少なく、グリーンシーズンの誘客拡大が課題

外国人延べ宿泊者数の推移

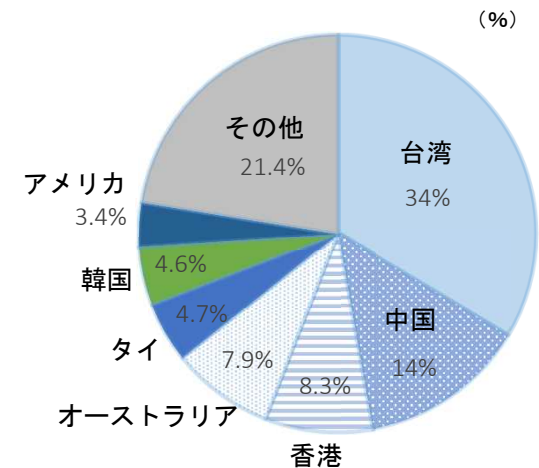


外国人延べ宿泊者内訳(平成30年)

■ 月別



■ 国（地域）別



宿泊者平均日数の増加 (平成26年) 1.46泊 → (平成30年) 1.53泊

出典：【観光庁「宿泊旅行統計調査」】

(参考) 長野県内の主なスノーリゾート

HAKUBAVALLEY (大町市、白馬村、小谷村)

- ・オリンピック開催地としての国際的知名度やJAPOWを活かし、「HAKUBAVALLEY TOURISM」(観光地域づくり法人)や自治体、事業者が一体となり、外部資本を取り入れながら、「通年型マウンテンリゾートの形成」に向けた、持続可能な観光地域づくりに取り組んでいる



○ オリンピック開催地としての国際的知名度を活かし、地域一体となった誘客

- ・平成30-31年ウィンターシーズンのスキー場の総入込者数 約154万人のうち、インバウンドは全体の24%にあたる約37万人(直近6年では年平均25%増加) 出典:【HAKUBAVALLEY索道事業者プロモーションボード調べ】
- ・観光地域づくり法人(DMO)や地域の関係者において、エリア内のシャトルバスの運行や10スキー場における共通ICチケットの導入、海外リゾートとの連携(Epic Pass)、バックカントリールールの制定などによりブランド化を推進
- ・中部国際空港セントレアや富山空港などのターミナルからの直行バスの定期運行化、長野市内宿泊施設とスキー場をセットにした宿泊・交通プランの造成による誘客

○ 魅力向上のための街づくり

- ・北アルプスの美しい景観を阻害している電線類を撤去する「白馬村無電柱化推進計画」の策定
- ・地域住民や白馬高校の学生からの提案による白馬村「気候非常事態宣言」の表明 (R1.12.4)

○ 通年型のマウンテンリゾートを目指した投資

- ・春~秋と冬の入込客数が逆転となったマウンテンハーバー(白馬岩岳)やグランピング施設、MTBコースの整備、古民家を改修したリゾート高級宿泊施設の開業などグリーンシーズンの誘客を強化

主な投資事例

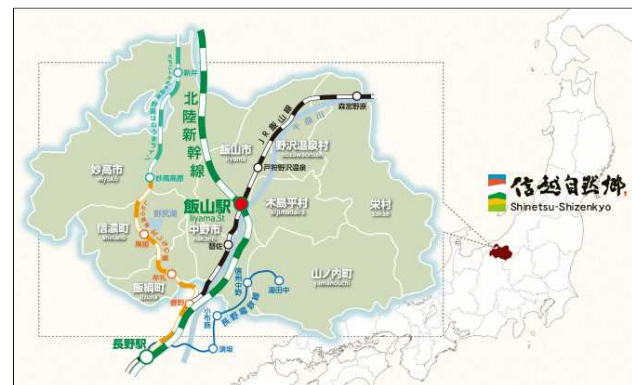
- ・コートヤード・バイ・マリオット白馬【白馬八方尾根】(H30.12.22)
- ・旅籠丸八【白馬岩岳】
壱番館・弐番館 (H30.12.22)
- ・Snow Peak FIELD SUITE HAKUBA KITAONE KOGEN【白馬八方尾根】(R1.7.13)
- ・複合施設「haluta」【白馬岩岳】(R1.12)
- ・UNPLAN Village Hakuba【梅池高原】(R1.12)

出典:【新聞記事から抜粋】

(参考) 長野県内の主なスキーリゾート

信越自然郷 (飯山市、野沢温泉村、山ノ内町、妙高市を含む9市町村)

- ・国際的な知名度をもつ「スノーモンキー」などのキラコンテンツやアクティビティや歴史・文化等の充実した観光コンテンツを有する地域
- ・エリア内には「斑尾高原」、「野沢温泉」、「志賀高原」、「妙高高原」などの国際人気の高いスキー場があり、エリア内の各地域において、リゾートとしての受入環境整備や体験型プログラムの提供などに取り組んでいる



○ 大規模エリアが一体となったプロモーションの実施

- ・エリア内に斑尾高原、野沢温泉、志賀高原、妙高高原など有名スキー場を有し、38スキー場の共通クーポン券「信越自然郷スーパーバリューチケット」を販売

○ アクティビティや歴史・文化などの観光コンテンツの充実

- ・飯山駅設置の「アクティビティセンター」を拠点としたグリーンシーズンのサイクリングやトレッキング、カヌーやラフティングなどのアクティビティの提供と外湯めぐり、かまくらの里、道祖神祭りなど雪国情緒の溢れる体験の提供、宿泊施設と飲食店の連携による「泊食分離」への対応

○ リゾートとしての受入環境の整備

- ・最新のゴンドラの架け替えや山頂駅のリニューアル(野沢温泉)、景観を損ねている廃ホテルの撤去(志賀高原)など大規模な投資を実施



スノーモンキー
(山ノ内町)



温泉街
(野沢温泉村)

主な投資事例

- ・廃ホテルの撤去【志賀高原】
環境省の補助金を活用し、(一財)和合会が廃ホテルの撤去に着手、跡地に民間投資を誘致
- ・ホテルサンモリッツ志賀【志賀高原】
アイフル子会社による経営難ホテルの取得 (R1.12.20)

出典:【新聞記事から抜粋】

長野県のスノーリゾート形成に向けた施策

- ・長野県では平成30年3月に「信州の観光新時代を拓く 長野県観光戦略 2018」を策定し、そこに暮らす人も訪れる人も「しあわせ」を感じられる世界水準の山岳高原リゾートを目指している
- ・さらに、地域の「魅力ある資源」・「特性」を活かしながら、「スノーを中心に据えた通年型のマウンテンリゾートを形成」することで、戦略的にインバウンド需要を取り込むこととしている

主な取組

○ 観光地域づくりの担い手

- ・（一社）長野県観光機構（県全体を対象とする地域連携DMO）の「DMO形成支援センター」が、市町村域を越えた「広域型DMO」*の形成を支援 *複数の市町村を対象とした広域的な地域のストーリーに沿って観光地域づくりを実行する地域連携DMO
- ・令和元年6月に「県が重点的に支援する広域型DMO」の第一弾として（一社）HAKUBAVALLEY TOURISMを指定し、「世界から選ばれる山岳観光地域の構築」に向けて、ソフト・ハード両面から支援
- ・県内の観光地域づくり法人（DMO）関係者などが個人旅行（FIT型）のニーズに合わせた体験型（コト消費）旅行商品を各地域で検討、造成・販売

○ インバウンド需要を取り込むための受入環境整備

- ・平成31年2月に官民連携による「長野県インバウンド推進協議会」を設立し、旅行商品造成、まちづくり・交通、受入環境整備、海外へのプロモーションなど4つの部会において、スピード感を持って推進
- ・ストレスフリーな滞在環境を提供するため、広域的に連続性や一体感のある案内標識の整備、無料Wi-fiやキャッシュレス決済の環境整備を推進
- ・デュアルスキー（着座式スキー）の普及等、障害などの有無に関わらず、誰もが安心して本県の山岳高原観光を楽しめる「信州型ユニバーサルツーリズム」を推進

○ 世界から呼び込むための情報発信

- ・「長野-新潟スノーリゾートアライアンス実行委員会」などによる国・市場ごとの特性に応じた戦略的なプロモーションを展開
- ・（一社）長野県観光機構を中心に、学校交流の受入調整や現地営業による訪日教育旅行の誘致・受入を推進
- ・官民連携の「スノーリゾート信州」プロモーション委員会などによる、国内向けの戦略的プロモーションの展開

長野県の中国市場への取組

- ・長野県では、2022年北京冬季オリンピック・パラリンピック開催を契機とした中国でのウィンタースポーツ市場の急成長を踏まえ、中国からのインバウンド需要を戦略的に取り込むために、スキーによる誘客を地域と一体となって推進

主な取組

○ 中国スキープロモーションの実施 ～“ガチ”スキーヤーを白馬、志賀高原、斑尾等へ～

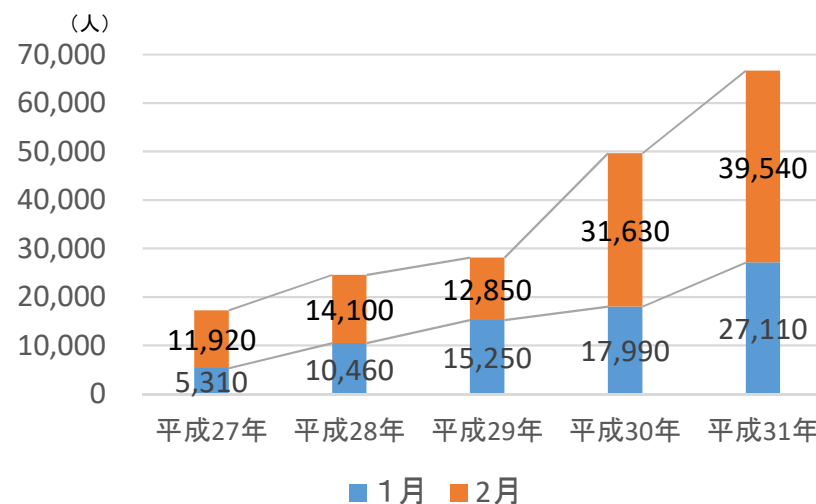
- ・北京市、上海市、広東省広州市などでスキー・スノーボード愛好家を対象とした説明会を開催（平成29年～令和元年 計7回 延べ来場者数1,601名）
- ・中国メディア、スキービジネス関係者等を県内スノーリゾートへ招請（平成30年～令和元年 計2回 延べ13名）
- ・国際冬季運動（北京）博覧会への出展（平成28年第1回から連続出展。連続出展は、日本の自治体では長野県のみ）



○ 将来に向けた取組 ～すそ野の拡大～

- ・北京市を拠点とする室内スキー練習場と連携し、青少年を対象とした「スキーのトレーニング+総合学習」を兼ねた合宿を誘致（令和2年1月から順次受入）
- ・日中青少年スキー交流大会の開催
日中のスキージュニア選手を対象としたスキー競技大会を白馬岩岳スノーフィールドで開催

中国人延べ宿泊者数の推移（1月、2月）



出典：【観光庁「宿泊旅行統計調査」】